

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 20 年度

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	秋田岩手広域地域連携観光交流推進協議会負担金				
担当課係名	観光課	観光係	作成者	田口聡美	
総合計画での位置づけ	施策の大綱	歴史と自然が織りなす交流拠点のまち			総合計画のページ
	基本計画	観光誘客体制の整備と観光資源の掘り起こし			
	主要施策	観光客受入態勢の整備			29
予算費目	一般会計	7款 商工費	1項 商工費	3目	観光費
事業期間	平成 年度 ~ 平成 年度	新規 / 継続の区分		継続	
性質区分	☐ 市民サービス ☐ 公共事業 ☐ 施設維持管理 ☒ 補助金 ☐ 内部管理				
根拠法令等	なし				
事務区分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務				
運営方法	☐ 直営 ☐ 直営(一部民間委託) ☐ 民間委託(全部) ☒ 補助				

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	観光客。観光業者。
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	仙北・北秋田・雫石の3市町間の観光客の流動性を高め観光客数を増加させる
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	3市町協力した事業(キャンペーン、パンフレット作成、観光情報発信、地域間の勉強会、HP作成)

【事務事業の推移】

	項 目			単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	
効果	活動指標	活動事業数	目標	回	11	11	17	
			実績	回	11	11	17	
			達成度	%	100.0%	100.0%	100.0%	
	成果指標	年間観光客数	目標	人	10,000,000	10,000,000	10,000,000	
			実績	人	6,232,285	5,967,939	5,251,241	
			達成度	%	62.3%	59.7%	52.5%	
投下コスト	項 目		総事業費		18年度決算額(千円)	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)	
	事業費（人件費を除く）(A)				1,500	1,500	750	
	人 件 費 (B)		—		785	807	793	
	職 員 数		—		0.10	0.10	0.10	
	職 員 平 均 人 件 費		—		7,853	8,071	7,925	
	(A) + (B) 投下コスト				2,285	2,307	1,543	
	財源内訳	国 庫 支 出 金				0	0	0
		県 支 出 金				0	0	0
		地 方 債				0	0	0
		そ の 他				1,500	1,500	750
		一 般 財 源				785	807	793
	単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—		207,727	209,727	90,765
市民1人当たりのコスト(円)		—		72	73	50		

【事務事業の今までの成果】

協議会ＨＰ開設、観光フォーラム開催、きらめき写真展開催、観光パンフレット作成等

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	観光客のニーズの多様化に対応するためにも近隣町村との連携を強化して観光地間の流動性を高めていく必要があると考えられている。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	観光産業を取り巻く状況の悪化に伴いこの協議会への要望等も多くなってきている。３市町協力して事業を行える唯一の組織である。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性	判 定 に 至 っ た 理 由
B 2	A 現状のまま継続（実施）	大手旅行会社等が構成員となっているが有効に活用出来ていないため、構成員の見直し等が必要である
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）
構成員等、協議会の設立目標等の見直しを行いより効果的な協議会として運営することについて検討する

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
B 2	広域的な観光連携を目的とした類似団体が複数存在しており、各団体の独自性や事業効果の検証を踏まえて支援を行うという視点も必要と考えます。

